令和6年度 事業報告書

はじめに

近年、少子高齢化や家族形態の変化、社会的孤立、物価高騰による生活基盤の圧迫など、地域が抱える課題はますます複雑かつ複合的になっています。

本会では、「子どもからお年寄りまで、皆で支え合い、共に生きるむらづくり」の実現を目指し、相談支援体制の整備や関係機関との連携強化に取り組んできました。

そのような中、地域社会を取り巻く環境の変化に伴い、「苦しい」と声を上げにくい方や、制度の狭間で困っている方の存在が見えづらくなってきています。専門職だけでは支援が難しい場面も増えており、地域住民による支え合い活動や見守り活動など、住民主体の地域づくりがより一層求められています。あわせて、地域と本会との連携・協働の重要性も高まっています。

本会では、地域支え合い活動委員会への参画をはじめとして、子ども宅食や子どもの居場所運営、長期休暇中には地域の協力のもと、よみたん子どもの居場所キャラバン隊を開催し、世代間交流を推進しました。また、地域・福祉団体・企業・施設との連携によって、学校や地域での福祉教育(共育)も実施しました。

さらに、生き生き健康センターを拠点とした福祉サービス事業や介護予防事業の充実強化にも取り組み、関係機関との協働を通して、地域福祉の実現に向けた各種事業を展開しました。

また、読谷村の社会福祉事業の発展のために功労のあった個人及び企業、団体を顕彰し、地域福祉活動の更なる普及と推進を図ることを目的に第13回読谷村社会福祉大会を開催しました。

必要な事業の報告

1. 法人運営活動

円滑な会務の運営及び事業の執行を図るため、次のとおり理事会、評議員会及び監査を実施した。

(1) 業務・会計監査の実施

日付	令和6年5月28日
内容	令和5年度決算監査
日付	令和6年10月24日
内容	令和6年度定期監査 業務監査及び会計監査(4月～8月)

(2) 令和6年度社会福祉法人指導監査

日付	令和7年2月5日
内容	監査人 沖縄県生活福祉部福祉政策課

(3) 令和5年度 読谷村補助金交付団体監査

内容	令和5年度補助金交付団体監査 ①社会福祉協議会運営事業補助金 ②総合福祉センター運営事業補助金 ※主管課である福祉課へ書類の提出
----	--

(4) 理事会・評議員会の開催

■ 理事会（開催数4回）

第1回	日付	令和6年6月10日	【出席12名】
	議案	第1号 令和5年度事業報告 第2号 令和5年度決算報告 第3号 役員等賠償責任保険契約 第4号 読谷村社会福祉協議会役員（理事）補充候補者の選任 第5号 読谷村社会福祉協議会評議員の補充候補者の選任 第6号 読谷村社会福祉協議会評議員選任・解任委員会委員の補充選任 第7号 読谷村社会福祉協議会評議員選任・解任委員の選任 第8号 令和6年度第1回評議員会（定時評議員会）の開催	
第2回	日付	令和6年10月2日	【出席10名】
	議案	第9号 令和6年度資金収支第一次補正予算 第10号 社会福祉法人読谷村社会福祉協議会「訪問介護事業所」パートタイム職員就業規則の一部を改正する規則 第11号 読谷村社会福祉協議会障害福祉サービス事業所運営規程の一部を改正する規程 第12号 令和6年度第2回評議員会の開催	
第3回	日付	令和7年2月19日	【出席9名】
	議案	第13号 令和6年度資金収支第二次補正予算 第14号 令和6年度第3回評議員会の開催	
第4回	日付	令和7年3月18日	【出席9名】
	議案	第15号 経理規程の一部を改正する規程 第16号 基金積立金の一部取り崩し 第17号 役員等賠償責任保険契約 第18号 令和7年度事業計画 第19号 令和7年度資金収支予算 第20号 令和6年度第4回評議員会の開催	

■ 評議員会（開催数 4 回）

第 1 回	日 付	令和 6 年 6 月 26 日	【出席 22 名】
	議 案	第 1 号 令和 5 年度 事業報告 第 2 号 令和 5 年度 決算報告 第 3 号 役員（理事）の補充選任	
第 2 回	日 付	令和 6 年 10 月 10 日	【出席 21 名】
	議 案	第 4 号 令和 6 年度資金収支第一次補正予算	
第 3 回	日 付	令和 7 年 2 月 27 日	【出席 24 名】
	議 案	第 5 号 令和 6 年度資金収支第二次補正予算	
第 4 回	日 付	令和 7 年 3 月 26 日	【出席 22 名】
	議 案	第 6 号 基金積立金の一部取り崩し 第 7 号 令和 7 年度事業計画 第 8 号 令和 7 年度会計資金収支予算	

■ 評議員選任解任委員会（開催数 1 回）

第 1 回	日 付	令和 6 年 6 月 14 日	【出席 5 名】
	議 案	第 1 号 読谷村社会福祉協議会 評議員の選任	

（ 5 ） 調査・広報啓発活動の推進

住民が地域で安心して暮らし続けるために必要な新しい福祉情報、社協情報を広報誌やホームページ等を積極的に活用し、社会福祉に対する理解と関心を深める事を目的に推進した。

- ①よみたん社協だより発行（年／6回：4月、6月、8月、10月、12月、2月）
- ②ホームページの活用（随時更新）
- ③公式LINEの活用（随時更新）

（ 6 ） 福祉関係団体活動の支援助成

■ 福祉関係団体等活動の支援助成（10 団体 1,741,000 円）

- ①読谷村身体障害者協会
- ②読谷村障がい児者を守る父母の会
- ③読谷村母子寡婦福祉会
- ④読谷村民生委員児童委員協議会連合会
- ⑤読谷村精神療養者家族会
- ⑥読谷村ボランティア団体連絡協議会
- ⑦読谷村赤十字奉仕団
- ⑧読谷村更生保護女性会
- ⑨手話サークル花織
- ⑩リーディングサービスともしび

※令和 5 年度（8 団体 1,671,000 円）

(7) 自主財源の確保

自治会及び行政事務連絡員のご協力や多くの村民のご理解を受け、財源の確保を行った。

年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
社協会費	2,367,175円	2,266,000円	2,191,100円
内訳	戸別会費：2,201,500円 賛助会費：91,000円 施設団体会費：64,675円 特別会費：10,000円	戸別会費：2,079,000円 賛助会費：91,000円 施設団体会費：96,000円 特別会費：0円	戸別会費：1,963,600円(表1) 賛助会費：130,500円(表2) 施設団体会費：97,000円(表3) 特別会費：0円

自治会	戸数	金額	自治会	戸数	金額	自治会	戸数	金額
喜名	109	54,500円	儀間	135	67,500円	大木	202	101,000円
親志	51	25,500円	宇座	229	114,500円	比謝町	15	7,500円
座喜味	341	170,500円	瀬名波	163	81,500円	牧原	37	18,500円
伊良皆	180	90,100円	長浜	210	105,000円	長田	27	13,500円
上地	20	10,000円	楚辺	386	193,000円	大添	100	50,000円
波平	361	180,500円	渡具知	177	88,500円	横田	86	43,000円
都屋	120	60,000円	比謝	92	46,000円	県営波平地 団地	40	20,000円
高志保	340	170,000円	大湾	135	67,500円	県営比謝地 団地	30	15,000円
渡慶次	180	90,000円	古堅	158	79,000円	その他	3	1,500円

※金額 1世帯500円

(表2) 賛助会員 (73名)

村民	民生委員	社協理事	社協評議員	社協職員

※金額 1口1,000円

(表3) 施設団体会員 ◆入所施設5ヶ所、通所施設1ヶ所、保育園・幼稚園11ヶ所、福祉団体11ヶ所、その他1ヶ所 合計29ヶ所

祥永会(読谷の里)	よみたん救護園	都屋の里	海邦福祉会
ケアセンターきらめき	残波かりゆし会	わかたけ保育園	わかたけ北保育園
のぐさ保育園	南古堅保育園	きりん保育園	わらび保育園
咲く原保育園	ふれ愛保育園	たけのご保育園	ぽのぽの保育園
読谷こばと幼稚園	読谷村身体障害者協会	読谷村精神療養者家族会	読谷村母子寡婦福祉会
読谷村障がい児者を守る 父母の会	読谷中学校区 民生委員児童委員協議会	古堅中学校区 民生委員児童委員協議会	読谷村赤十字奉仕団
読谷村更生保護女性会	家庭倫理の会 沖縄中部読谷支部	ゆいの会	読谷村ボランティア 団体連絡協議会
おきなわ子ども 未来ネットワーク			

※金額 ①入所施設5,000円 ②通所施設、保育園・幼稚園、福祉団体、その他3,000円

(8) 寄 附 金

多くの村民のご芳志を受け、下記のとおり寄附金が寄せられた。

寄附金総額 62件 5,193,436円

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
百歳記念	件数	0	0	0
	金額	0	0	0
カジマヤー	件数	1	3	4
	金額	50,000	200,000	300,000
米寿・トーカチ	件数	0	1	0
	金額	0	100,000	0
古希祝い (70歳)	件数	1	1	0
	金額	30,000	30,000	0
香典返し	件数	29	17	17
	金額	3,140,000	1,190,000	1,140,000
一般寄付	件数	48	52	39
	金額	6,404,955	6,213,264	3,443,436
指定寄附	件数	12	1	2
	金額	809,000 ※フードバンク事業へ	300,000 ※フードバンク事業へ	310,000 ※フードバンク事業へ
合 計	件数	91	75	62
	金額	10,433,955	8,033,264	5,193,436

(9) 役職員研修会

社協役職員や関係機関の皆様を対象に災害マニュアルBCP（事業継続計画）の基礎理解や災害ボランティアセンターの勉強会、生き生き健康センターを拠点とした福祉サービス事業のBCP初動対応訓練を行った。また、働きやすく働きがいのある職場づくり研修会を実施した。

第1回	日付	令和6年8月2日（金）	【参加者40名】
	内容	■職員研修会 BCPの基礎知識 「災害マニュアルBCPの基礎理解と災害対応研修会」 講師 まちなか研究所わくわく 宮道 喜一氏 参加者 役員・地域福祉事業職員・福祉サービス事業職員 場所 読谷村総合福祉センター2階ホール	

第2回	日付	令和6年11月19日(火) 【参加者47名】
	内容	<p>■災害ボランティアセンター勉強会</p> <p>『災害ボランティアと災害ボランティアセンターの基礎的な知識について～地域協働型による災害ボランティアセンター運営に向けて～』</p> <p>講師 沖縄県社会福祉協議会 地域福祉部 沖縄県ボランティア・市民活動支援センター 與儀 隆一氏 (グループワーク)</p> <p>講師 まちなか研究所わくわく 宮道 喜一氏</p> <p>参加者 自治会長・民生委員児童委員・読谷村役場職員・消防団社協職員</p>
第3回	日付	令和7年2月7日(金) 【参加者41名】
	内容	<p>■読谷村社会福祉協議会BCP初動対応訓練研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読谷村社会福祉協議会BCP内容確認 ・BCP初動訓練 ・各事業所と社協法人事務局との連携(ロールプレイ) ・まとめ <p>講師 まちなか研究所わくわく 宮道 喜一氏</p> <p>参加者 福祉サービス事業3事業所職員・事務局長・事業係長</p>
第4回	日付	令和7年1月27日(月) 【参加者40名】
	内容	<p>■読谷村社協 働きやすく働きがいのある職場づくりのために ～自己理解と他者理解を深める～ (グループワーク)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション お互いを承認しあう。自己理解と他者理解 ・働きやすく成果を出せるチームとは？ <p>講師 合同会社 Happy Joy 幸喜穂乃氏</p> <p>参加者 社協職員(地域福祉・福祉サービス)</p>

(10) 第13回読谷村社会福祉大会の開催

読谷村の社会福祉事業の発展のために功労のあった個人及び企業、団体を顕彰し、地域福祉活動の更なる普及と推進を図ることを目的として、3年ごとに開催。今回は「住民みんなでつながり、支え合う地域づくりをめざして」をスローガンとして開催し、約200名が参加した。

- ・開催日 令和7年3月22日(土)
- ・場所 読谷村総合福祉センター 大ホール
- ・内容
 - ・受賞者 個人61名、企業及び団体19件
 - ・ダンスアトラクション 古堅中学校ダンス部
 - ・記念講演 「災害への備えとボランティア活動を通して
～嫌われる勇気と忘れ去られる幸せ～」 講師 玉木千春氏

2. 障害者地域生活支援事業（村受託事業）

（1）三町村（読谷村・嘉手納町・北谷町）手話通訳者等現任研修

聴覚障害者の背景や理解を深めるとともに、手話通訳として求められている知識と技術について極める機会を設けることにより、あらゆる場面で手話通訳に必要な知識と技術の資質向上を目指し開催した。

- 期 間 令和6年5月13日（月）～令和7年3月10日（月）全6回
- 場 所 読谷村総合福祉センター 2階大ホール
- 講 師 中村成将 氏（沖縄県聴覚障害者協会専任講師）
- 講義講師 永井秀行 氏（気象防災アドバイザー）
- 受 講 者 12名

（2）声の情報発行事業

視覚に障害のある方への情報支援として「広報よみたん」や「よみたん社協だより」等を音声にして定期的に提供する。「目の代わり」となって、情報を声で伝え、その方々の生活支援を行っている。

- 利用者 7名
- 内 容 ①村広報誌『広報よみたん』 年12回（月1回）
②よみたん社協だより 年6回（4月,6月,8月,10月,12月,2月発行）
- 協 力 音訳ボランティアグループ（リーディングサービス「ともしび」）

（3）福祉機器リサイクル事業

地域住民から寄贈されたリサイクル（不要になった）の福祉機器（車椅子・ベッド・シャワーチェア・松葉杖等）を回収・整備し、無料で貸出する事によって利用者の日常生活上の便宜を図り福祉の増進に資すると共に家族の介護負担軽減することができた。

	車イス	杖	歩行器	ポータブルトイレ	シャワーチェア	ベット用手すり	合計
貸出件数	105	11	10	9	7	1	143

（4）アルコール問題を考える勉強会

委託相談員はじめ、関連する相談員、各機関等との連携ネットワークを構築していく中で、アルコール問題に関する支援では、一筋縄ではいかないことも多く長期間の関わりになり、支援者同士の焦りや疲弊にも繋がってくる。今回の勉強会では「動機付け面接法」について学び、今後の支援に活かしていくことを目的に開催した。

- 開催日 令和7年2月4日（火）
- 場 所 読谷村総合福祉センター老人憩いの室
- 講 師 犬尾 仁 氏（沖縄リハビリテーションセンター病院 内科医）
- 内 容 「動機付け面接法」を学ぶ勉強会
- 対 象 読谷村アルコール問題支援者ネットワーク会議参加者
- 参加者 18名

(5) ペアレントトレーニング【導入編】

【～知りたい！幼児期・学童期の「発達障がい」への支援のこと～】

（『よみたん〇〇会議』の第4弾として実施）

発達障がいは、年齢や環境により症状の現れ方が異なり、診断時期により診断名が異なる場合がある。本事業では発達障がいに対する理解を深め、子ども一人ひとりの特性に応じた支援のあり方を学ぶ機会として開催し、村内の支援状況、制度について関係機関それぞれの取り組みを紹介した。

- 実施日 令和6年8月10日（土）
- 場 所 読谷村総合福祉センター 2階大ホール
- 参加者 33名（村内29名、村外4名）
- 登壇者

ペアレント	岡崎 綾子 氏（NPO法人ぺあ・さぼーと）
行 政	糸 数 昌 氏（読谷村教育委員会 学校指導課 主幹）
療育支援	宇榮原宗博 氏（ていんがーらからはーい相談専門員）
広域支援	山 里 恵 氏（県発達障がい者支援センターがじゅま〜る）
社 協	古波蔵 圭一朗（読谷村社会福祉協議会 相談専門員）
進 行	比 嘉 大 和（読谷村社会福祉協議会 事業係長）

(6) ペアレントトレーニング講座

子どもの行動を直すことではなく、親が子どもに関わりやすい具体的な対応を身につけることで、悪循環を断ち、親と子が共に自己有能感や自尊心を取り戻し、日常生活がより穏やかにおくれるように親をサポートすることを目的に開催した。

- 期 間 令和6年9月20日（金）～令和7年1月31日（金）
全8回＋フォローアップ
- 場 所 読谷村総合福祉センター中研修室
- 講 師 岡崎綾子（NPO法人ぺあ・さぼーと ペアトレ研究会）
岡崎瑞希
- 受講者 5名

(7) ペアレントトレーニング【卒業生フォローアップ講座】

ペアレントトレーニングプログラムで学んだことを振り返り、子どもの成長の様子をお互いに報告した。参加者の子どもの就学や進学、思春期の子どもへの関わり、地域の福祉サービスや教育的支援の情報など、様々な情報を得られる貴重な機会となった。

- 実施日 令和6年9月27日（金）
- 場 所 読谷村総合福祉センター中研修室
- 講 師 岡崎綾子（NPO法人ぺあ・さぼーと ペアトレ研究会）
岡崎瑞希
- 内 容 配慮が必要な子の支援について～行動を観察して適応行動を増やす支援～
- 対 象 令和3～5年度ペアレントトレーニング講座修了生 27名
- 参加者 5名

(8) ペアレントプログラム

発達障がい児の親支援として実施。ペアレント・トレーニングの前段階の位置づけであるペアレント・プログラムは、発達障がいの有無によらない子育てに困り感のある親支援ができ、同時に講師研修として支援者を育成していくことができる。子育て中の親支援と講師研修として人材育成を行い、地域の事業所が独自開催（自走化）でき、地域にペアプロが根付くことをめざして開催した。

- 期 間 令和 6 年 9 月 10 日（火）～令和 7 年 1 月 14 日（火）
全 6 回＋フォローアップ
- 場 所 読谷村総合福祉センター 2 階大ホールまたは団体室
- 参加者 講師研修 4 名 保護者 3 名

(9) 災害への備え講演会 ～自分で自分の命を守るために～

自分の住んでいる地域や、今いる場所で「災害」はいつ何時起こるか分からない。「自分で自分の命を守るために」どのような備え、対応が必要なのかを改めて学んだ。読谷村が発行している防災マップの見方を学び、村の取り組みや日頃から「備える意識」をもち、どのように行動したらいいかを考えることを目的として開催した。

- 開催日 令和 7 年 2 月 17 日（水）
- 場 所 読谷村総合福祉センター 2 階大ホール
- 講 師 防災士 大城 執 氏（読谷村役場福祉課地域福祉係）
- 内 容 災害発生前の備えについて（改めて準備した方が良い物など）
 - ・ 防災マップの活用法、読谷村の取り組みについて
 - ・ 備蓄について
 - ・ 地域とのつながりの大切さ など
- 参加者 33 名

3. 読谷村外出支援サービス事業（村受託事業）

村内に住む要援護高齢者及び身体障がい者等に対し、「はいさい号（リフト車）」を運行し、本事業を実施する事により医療機関、公共施設等への移動を支援する。高齢者等の生きがいと社会参加を促進し、外出の支援並びに福祉の向上を図る事を目的としている。

【利用登録状況】 ◇登録者数 16 名（新規登録者数 5 名、利用停止・取消 10 名）

【利用状況】 ◇利用述べ回数 82 回 ◇実利用者数 12 名

◇運行時間：86 時間 22 分

○利用実績

※その他（入院・退院）

利用状況	項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3	合計
	利用回数		10	3	8	6	7	7	1	8	8	6	4	5
実利用人数		7	3	7	3	7	5	7	6	6	5	4	4	64
目的	通院加療	9	4	8	7	8	9	9	1	7	7	4	4	86
	そ の 他	2	0	0	0	0	0	2	1	2	0	0	1	8

4. 福祉相談事業

福祉相談事業は地域住民のあらゆる福祉相談を受け各関係機関へ繋げると共に福祉のニーズを把握し、住み慣れた地域で安心した生活が送れるよう推進した。

(1) 心配ごと相談所開設状況

誰もが身近に日常生活上のあらゆる悩みや心配ごとを気軽に相談できる窓口として社協窓口にて相談対応を実施。専門的な相談内容については、専門相談日を設け対応を行った。

- ① 法律相談（令和6年4月～令和7年3月の第3月曜日）／相談件数 11件
- ② 就労相談（令和6年4月～令和7年3月の毎週金曜日）／相談件数 28件
※就労コーディネーターと社協で関わるケースの共有会議を不定期で開催
- ③ アルコール問題に関する相談（令和6年4月～令和7年3月の第3木曜日）／相談件数 2件
- ④ 性・命に関する相談（令和6年4月～令和7年3月の第3水曜日）／相談件数 5件

(2) 日常生活自立支援事業（福祉サービス利用援助事業）県社協受託事業

日常生活自立支援事業とは、認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者等のうち判断が十分でない方が地域において自立した生活が送れるよう、利用者との契約に基づき、福祉サービスの利用援助や金銭管理援助、通帳・印鑑等の書類預かりを行う事業である。

【令和6年度 日常生活自立支援事業利用状況】

- ①相談援助件数累計（問い合わせ・相談援助件数）

	認知症高齢者等	知的障害者等	精神障害者等	不明・その他	合計
問い合わせ件数	0	0	0	0	0
初回相談別件数	4	2	2	1	9
相談援助件数	146	1	252	7	406
合計	150	3	254	8	415

- ②実利用者数：9名（認知症高齢者2名・精神障がい者7名）

※新規契約者2名（精神障がい者2名）／契約終了者なし

※契約準備件数（2ヶ月後までの予定）1名

- ③書類等預かり件数（通帳・印鑑等の保管）9件

- ④生活支援員登録者数4名（うち活動者3名）

【専門員研修会】

◆専門員研修

令和7年2月 令和6年度地域における権利擁護推進会議 参加（1人）

◆生活支援員研修

令和7年2月 生活支援員情報交換会（支援員2人・社協2人）

「精神障がい者の理解と支援（動画視聴）、活動内容等の情報交換」開催

(3) 緊急時における通帳等一時預かり事業

日常生活自立支援事業や成年後見制度等の活用がすぐには困難であり、その間に日常生活に支障をきたす場合に限り、制度利用開始となるまでの暫定的措置として通帳等の一時預かりを行う事業。

預かり件数：2名（認知症高齢者2名）／成年後見制度申立て期間中

(4) 読谷村相談支援事業（村受託事業）

障害のある方や家族から相談を受け、様々な情報の提供や助言、計画相談員とともに障害福祉サービスの利用支援等を行った。

◎期間：令和6年4月1日～令和7年3月31日

実人数	102名（男85・女17）	個別支援会議件数	参加50件・開催22件
延べ件数	1,057件	専門部会件数	39件
新規	39件	延べ時間	660時間

訪問	来所	同行支援	電話相談	文章メール	その他	
260件	100件	36件	634件	39件	0件	
自立支援施設連携	医療連携	役場連携	保健所連携	福祉事務所連携	他行政	その他連携
236件	200件	169件	17件	88件	68件	121件

事業名	読谷村アルコール問題支援者ネットワーク (読谷村地域自立支援協議会 相談部会での動き)
事業の目的	社会福祉協議会の心配ごと相談所にて、アルコール問題の相談員として依頼している断酒会・家族会に協力してもらいながら、アルコール問題に関する支援者のネットワーク構築を図る。支援者間の連携を図ることで、当事者や家族の支援向上を目指すとともに、支援者の抱え込み、孤立、バーンアウトを防ぎ、地域で継続した支援ができるよう支援者のネットワークを構築する。
事業の内容	定例（年間3回程度）でネットワーク会議を開催し、アルコール依存症の支援の知識や技術、地域のアルコール問題の事例検討や情報共有を行う。
開催日程	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回 令和6年6月4日（火） ・第2回 令和6年10月1日（火） ・第3回 令和7年2月4日（火）

事業名	民生委員児童委員と相談支援専門員（委託相談）の情報交換会 （読谷村地域自立支援協議会 相談部会での動き）
事業の目的	住民の立場に立って相談にのってくれる地域福祉のかなめである、民生委員児童委員の各部会へ相談支援専門員（委託相談）が参加し、担当地区で障がい等でお困りの方がいた場合に、すばやくつながる顔のみえる関係づくり・体制づくりを目的とする。
事業の内容	民生委員児童委員の各部会へ年に1回程度、相談支援専門員（委託相談員）が参加し、障害福祉サービスや相談支援専門員（委託相談員）の役割などの説明を通して、情報・意見交換を行う。
開催日程	・ひとり親部会 令和6年4月18日（木）

5. 福祉サービス苦情解決事業の実施

福祉サービス苦情解決事業は、利用者などからの苦情に対し、適切な解決に努めるために、職員を配置し、利用者の満足度を高めることや、利用者個人の権利を擁護するとともに、利用者が福祉サービスを適切に利用できるよう支援した。

■福祉サービス苦情解決事業における職員配置

①苦情解決責任者（事務局長） ②苦情受付担当者（介護保険事業所・法人事務局）

■第三者委員の設置 2名（東恩納盛幸、宮城 和江）

（1）要望等・苦情受付件数

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
要望等件数	0件	3件	3件	0件	2件
苦情受付件数	0件	3件	2件	3件	3件

【事業所別件数】

■通所介護事業所	要望等件数	0件	苦情受付件数	2件
■訪問介護事業所	要望等件数	2件	苦情受付件数	1件
■居宅介護支援事業所	要望等件数	0件	苦情受付件数	0件

（2）苦情対応情報交換会

令和6年度 苦情解決責任者、福祉サービス事業所管理者、苦情受付担当者の変更があり、福祉サービスに係る苦情解決第三者委員、福祉サービス事業3事業所管理者、苦情解決責任者（事務局長）、苦情受付担当者（3名）で福祉サービスの現状報告や苦情対応に関する情報交換。

	実施日	内容	参加者
第1回	令和7年 1月29日(水)	福祉サービスに係わる苦情対応に関する 情報交換会 ・苦情解決規程の確認 ・苦情受付様式の確認 ・令和6年度上半期の報告(現状報告) ・重要事項説明書の内容確認	苦情解決第三者委員 読社協福祉サービス 事業管理者 (通所・訪問・居宅) 事務局長、事業係長

6. 福祉教育事業の推進

法人保育園、村立幼稚園、小中高校を「読谷村福祉教育推進校(園)」として指定し、福祉教育を展開することにより、地域で暮らす多様な人々と出会い、お互いに理解を重ね、「ともに生きていく」地域社会づくりを目指すことを目的として実施した。

(1) 福祉教育推進校(園) 指定及び助成金交付 助成金額合計：355,061円

	福祉教育推進指定校(園)	助成金額
保育園5園	のぐさ・咲く原・南古堅・たけのこ・喜名(5園)各30,000円	150,000円
小学校5校	読谷(1校)	10,000円
	喜名(1校)	3,000円
	古堅南(1校)	59,638円
	古堅・渡慶次(2校)各60,000円	120,000円
高等学校1校	読谷高等学校	12,423円

(2) 「福祉教育体験」の相談支援

福祉教育体験学習を通して多様性について理解を深めることを目的に、学校や地域からの相談を受け、日程や講師などを調整し支援を行った。

協力：村身体障害者協会、民生委員児童委員、村内事業所

学校名	内容	講師等
古堅南小学校 (4年生)	■令和6年6月27日 ・読谷村のふくしについて	古堅南小学校体育館 講話：社協職員
	■令和6年11月21日 ・視覚障がい者について学ぶ (盲導犬ユーザー講話)	古堅南小学校体育館 講師：内間由美氏 盲導犬：内間フジ
渡慶次小学校 (4年生)	■令和7年1月20日 ・視覚障がい者について学ぶ (アイマスク体験及び講話)	渡慶次小学校体育館 講話：社協職員 協力：読谷村民生委員児童委員

喜名小学校 (4年生)	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年6月7日 ・読谷村のふくしについて 	喜名小学校体育館 講話：社協職員
	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年7月10日 ・視覚障がい者について学ぶ (アイマスク体験及び講話) 	渡慶次小学校体育館 講師：比嘉直美 氏 協力：読谷村民生委員児童委員
読谷小学校 (4年生)	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年6月12日 ・読谷村のふくしについて 	読谷小学校2階広場 講話：社協職員
	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年9月4日 ・身体障がい者について学ぶ (電動車いすユーザー講話) 	読谷小学校体育館 講師：宮城幸春 氏 社協職員
	<ul style="list-style-type: none"> 令和7年2月12日 ・視覚障がい者について学ぶ (アイマスク体験及び講話) 	読谷小学校体育館 講師：比嘉直美 氏 協力：読谷村民生委員児童委員
	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年12月10日(火)～20日(金) ・高齢者について学ぶ (高齢者疑似体験) 	読谷小学校 高齢者疑似体験の貸出し仲介
読谷高等学校	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年11月15日 美術授業 ・障がい者への理解 (障がい者との交流 アート作品作り) 	読谷高等学校美術室 協力：一般社団法人 からはーい
	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年12月10日 保育探求授業 ・障がい者への理解 (障がい者との交流 未就学児との交流) 	きらめきキッズ大湾東 協力：有限会社 ケアセンターきらめき
	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年12月11日 ・視覚障がい者への理解 (盲導犬ユーザー講話) 	読谷高等学校視聴覚室 講師：内間由美 氏 盲導犬：内間フジ
	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年12月12日 保育探求授業 ・障がい者への理解 (障がい者との交流 未就学児との交流) 	きらめきキッズ大湾東 協力：有限会社 ケアセンターきらめき
	<ul style="list-style-type: none"> 令和7年1月14日 地域探求授業 ・高齢者福祉への理解 (ゲートボールを通して世代間交流) 	読谷村伊良皆運動広場 協力：読谷村ゲートボール協会
	<ul style="list-style-type: none"> 令和7年1月28日 JRC同好会メンバー ・まなびフェスタに向けた車いす体験事前学習 	読谷高等学校校内 対応：社協職員
ケアマネージャ 連絡会	<ul style="list-style-type: none"> 令和7年2月1日 JRC同好会メンバー ・まなびフェスタにて車いす体験 	読谷村文化センター中ホール 協力：読谷高等学校
	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年10月17日 ・ケアマネージャ連絡会 (超高齢者社会体験ゲーム コミュニティコーピング体験) 	読谷村役場会議室 対応：社協職員

(3) 第37回いもっ子 SCHOOL (読谷村・嘉手納町社協合同事業)

読谷村と嘉手納町の中・高校生を対象に、地域の課題について学ぶと共にお互いの交流を深め、今後のボランティア活動の輪を広げることを目的として実施している。

今回は「つながり・つながる理想の居場所」をテーマに地域でおこなわれている「こどもの居場所」について考えると共に嘉手納町、読谷村の中・高校生の交流を深め、地域福祉を担う人材の輪を広げる事を目的として開催。

日付	内容	場所
令和6年 6月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度のふりかえり ・今年度の実施に向けて 	嘉手納町社会福祉協議会
令和6年 8月6日	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション（趣旨説明、本日の流れ説明） ・アイスブレイク「#自己紹介」 自分にハッシュタグをつけてグループ内で自己紹介 ・子どもの居場所体験（大木公民館、レアーズ） 前半：レアーズ ⇒ 後半：大木公民館 後半：大木公民館 ⇒ 後半：レアーズ ・ふりかえり ○体験した感想・気づきの共有 ○地域であったらいいなと思う場所、行事 ・発表 ○地域であったらいいなと思う場所、行事 ■参加：読谷9名（中学5名、高校4名） 嘉手納5名（高校5名） オブザーバー（大学生7名） 	主会場：読谷村総合福祉センター サブ：大木公民館、レアーズ

7. ボランティア活動支援の推進

ボランティア活動を通して住みよい地域づくりを目指している地域ボランティアの活動を支援するために、活動資金の助成及び読谷村ボランティア団体連絡協議会との連携を図り、ボランティア活動への住民参加を広く推進した。

(1) ボランティア団体（ボランティア団体連絡協議会加入団体）

ゆいまーる共生事業（23 団体）	ユンタンザ歌の会	更生保護女性会
配達ボランティア	手話サークル「ゆんたんじゃ」	家庭倫理の会読谷支部
読谷村赤十字奉仕団	手話サークル「花織」	リーディングサービス「ともしび」
要約筆記サークル「ほまえみ」	要約筆記サークル「ほまえみ」	

(2) ボランティア保険の加入促進（加入 17 件 331 名）

(3) ボランティアコーディネート活動

◎相談内容による分類件数（合計 76 件）

相談内容	件数	相談内容	件数
ボランティア希望に関すること	3件	職場体験に関すること	2件
ボランティア派遣に関すること	2件	学校との福祉教育に関すること	34件
福祉団体・ボランティア団体に関すること	1件	清掃相談・実施に関すること	2件
読谷村ボランティア団体連絡協議会に関すること	12件	ボランティア活動保険案内・受付	20件

(4) 読谷村ボランティア団体連絡協議会への支援

令和6年度 12回/年	●会議 読谷村ボランティア団体連絡協議会の会議参加	読谷村総合福祉センター
----------------	------------------------------	-------------

(5) 街頭募金等への協力

学生ボランティアや民生委員児童委員のご協力のもと、村内の大型スーパー等で「赤い羽根共同募金運動」の街頭募金運動へ協力をした。

場所 サンエー大湾シティ、マックスバリュ読谷店、マックスバリュ座喜味店

日付 ①12月8日（日）ボランティア 37名 ②12月22日（日）ボランティア 30名

(6) ゆいまーる共生事業の支援

公民館を拠点に実施されているゆいまーる共生事業へレク用品の貸出を行い、活動の充実を支援した。

【総貸出件数 33 件】

レク用品一覧		
ポッチャ2セット	ラダーゲッター2セット	たいこ相撲
スロットカーリング	バッコー	釣りっこ
レクゴルフ&ボウリング	点鳥ルーレット	ソフトスティック

(7) 音訳ボランティア養成講座

視覚障がい者への幅広い情報を提供するために活動している音訳ボランティアのスキルアップを目的として開催した。

- 開催期間 11月18日（月）～12月23日（月）全6回
- 場所 読谷村総合福祉センター 老人憩いの室
- 講師 嘉数明美 氏
（朗読会「道」代表朗読指導、ヴォイストレーニング講師）
- 対象 音訳ボランティアグループリーディングサービス「ともしび」会員
- 参加者 11名

8. 在宅福祉サービス事業

住み慣れた地域で安心して生活できるようきめ細やかな在宅福祉サービス事業が求められている中、地域住民相互の理解と支え合いの福祉活動を推進した。

(1) 食事サービス事業

週1回行っている「食事サービス事業」は、配達ボランティアの方々の深いご理解とご協力を受けて見守りが必要な世帯を対象に友愛訪問を行い、安否確認を目的に事業を実施した。

◎食事サービス利用状況

(令和7年3月現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平均 利用人数	74	73	71	68	68	69	70	66	62	62	58	58	67人
延べ食数	295	365	283	272	340	274	350	262	249	249	230	232	3,401食
実施日数	4	5	4	4	5	4	5	4	4	4	4	4	51日

◎地域別利用状況(総件数57件)

(令和7年3月現在)

地域	件数	地域	件数	地域	件数	地域	件数	地域	件数
長浜	8	宇座	1	喜名	2	大木	4	比謝	3
瀬名波	3	高志保	3	横田	2	伊良皆	1	座喜味	2
儀間	2	波平	2	楚辺	7	渡具知	5	社協関係	3
渡慶次	2	都屋	2	大添	4	古堅	1		

◎令和6年8月に民生委員児童委員に協力をもらい、現状確認を目的に食事サービス利用調査を実施した。

9. 児童福祉活動事業の推進

(1) 子どもの居場所づくり支援事業(村受託事業)

こどもの貧困対策に関する大綱にある「子育てや貧困を家庭の責任とするのではなく、地域や社会全体で課題を解決するという意識を持ち、子どものことを第一に考えた適切な支援を包括的かつ早期に講じる」という理念のもと、今年度はこども宅食事業・フードバンク事業・こどもの居場所・ネットワークの構築・長期休暇時のこどもの居場所キャラバンを行った。また、事業を展開していくための情報収集、地域との意見交換、研修等を企画し実施した。

◎こどもサポートネットワークよみたん

こどもの居場所、支援を行っている企業、団体、個人とネットワークの構築を行い、地域の子ども達が安心して過ごせる環境を作っていくために互いの良いところ、困り感の共有を行った。2月は、研修会を開催し、読谷村のこどもの居場所について考えた。

(加盟団体・企業・個人)

- 読谷村社会福祉協議会（事務局） ■ NPO法人 インカレッジ ■ 合掌食堂
- 株式会社 ナチュラルブルー（一般社団法人 沖縄美ら海教育学校）
- 一般社団法人レアーズ ■ 一般社団法人あいのいえ ■ 美膳米工房 ■ きじむな一広場

◎こども宅食

生活困窮世帯や一時的に支援が必要な世帯へ食の支援を行いながら必要な支援や相談機関へ繋げるアウトリーチ支援を行った。

- 13世帯 31名 延べ数 560食（※長期休暇時 こども未来課6世帯 24名 延べ 138食）

◎こどもの居場所

ホッと安心できる居場所。子ども達が気軽に来れる居場所づくりを行った。

- 放課後の居場所 延べ数 1421名

◎夏休みみんなで食べよう朝ご飯キャラバン（令和6年8月）

地域に開かれた公民館等で、地域の皆さんと一緒に子ども達へ朝ご飯の提供を行い、食の提供・多世代交流の機会や事業周知・地域における担い手の発掘や今後の活動展開を一緒に考えるきっかけづくりとして実施した。

- ① 公民館 5か所 食事提供数 219食

開催場所	児童	保護者	地域ボランティア	学生ボランティア
宇座公民館	19名	1名	4名	7名
大木公民館 (いもっこコラボ)	41名	3名	7名	5名 いもっこ 18名
瀬名波公民館	10名	-	3名	19名
高志保公民館	10名	1名	2名	12名
大湾公民館	39名	3名	3名	12名

- ② 団地 1か所 食事提供数 25食

開催場所	児童	保護者	地域ボランティア	学生ボランティア
波平団地	11名	-	3名	11名

◎春休みこども食堂交流キャラバン（令和7年3月）

地域に開かれた公民館等で、地域の皆さんや学生ボランティアと一緒に調理体験を行い、食事を通して多世代交流を図ることを目的に活動を行った。

- ① 公民館 5か所 食事提供数 371食

開催場所	児童	保護者	地域ボランティア	学生ボランティア
喜名公民館	92名	10名	5名	14名
古堅公民館	34名	10名	7名	9名
渡慶次公民館	58名	4名	4名	7名
大木公民館	21名	4名	10名	14名
高志保公民館	41名	3名	5名	19名

② 団地 1か所 食事提供数 52食

開催場所	児童	大人	地域ボランティア	学生ボランティア
波平団地	20名	29名	3名	-

③ 児童館 1か所 2回 軽食提供数 122食

開催場所	児童	大人
みらい児童館 (3/21)	64名	11名
みらい児童館 (3/31)	37名	10名

◎こどもの居場所 学生プロジェクト

沖縄県内の大学生を中心に読谷社協の事業に参画してもらい、学びの機会の提供と今後の担い手の発掘を目的として活動を行った。(読谷中学校・古堅中学校・読谷高校の生徒も多数参加)
・こどもの居場所キャラバンの企画・運営・中高生のボランティアのサポートなど(8月・3月)

10. 地域福祉ネットワーク事業の推進(村受託事業)

～ 地域における生活困窮者支援事業等のための共助基盤づくり事業 ～

地域住民・行政・社協が一体となって、個別ケースへの支援や地域の特性に応じた地域社会を基盤とした支え合う仕組みの構築を目指し、本事業を推進した。

(1) 相談状況について

相談者や地域住民からあがった相談に対応し、相談内容にあった関係機関と連携しながら、問題解決を図り、相談者が人生の幸福感を感じられるようサポートを行った。また、個別支援会議を行ない、相談者の抱える生きづらさを関係者で共有し、一人ひとりが住みやすい環境づくりを支援した。

①新規・継続件数

	新規相談実数	継続相談実数	合計
相談対象者実数	32名	84名	116名

②相談形態別件数

	訪問	来所	電話	その他	合計
相談延べ件数	87件	107件	452件	39件	685件

③相談者内訳

相 談 者	件 数
本人	400
家族	34
地域住民	16
民生委員児童委員	21
自治会・地域支え合い活動委員協力員	9
行政機関	82
高齢者サービス機関	7
障がい福祉サービス機関	25
福祉事務所	50
生活困窮者自立支援機関	31
医療機関	28
学校・教育機関	2
見守り協定事業者	0
その他	55
合 計	760 件

③相談支援内容別件数

相談内容	令和4年度	令和5年度	令和6年度
子どもに関すること	13	39	14
障がいに関すること	33	41	20
就労に関すること	21	44	24
年金に関すること	7	0	1
介護・認知に関すること	80	48	13
依存症、精神疾患に関すること	49	147	75
病気、健康に関すること	277	232	155
住居に関すること	127	70	44
日常生活自立支援事業・成年後見制度に関すること	7	14	5
DV・虐待に関すること	10	2	3
ご近所トラブルに関すること	42	55	24
生活支援に関すること（見守り等）	143	143	71
ゴミ屋敷に関すること	20	21	2
ニート・ひきこもりに関すること	1	7	0
災害時要援護者に関すること	0	0	0
生活困窮に関すること	260	248	238

生活福祉資金に関すること	86	45	15
法外援護に関すること	0	0	0
専門相談（弁護士・司法書士等）	3	15	0
社協事業に関すること	0	0	0
その他	380	345	253
合 計	1,559 件	1,516 件	957 件

（２）くらしの心配ごと相談会

コロナ禍により就労困難で収入減少した世帯や、物価高騰の影響で困窮状態が続いている世帯も多い。今後の生活の立て直しや、抱えている不安を少しでも減らせるよう専門相談員や社協職員によるワンストップ相談を行うことにより、これからの生活支援（寄り添い支援）につなげるため相談会を開催した。

◎第1回 令和6年8月30日（金）午後1時～5時／相談件数16件

◎第2回 令和7年2月28日（金）午後1時～5時／相談件数18件

【協力機関】家計相談／家計改善相談員（パーソナルサポートセンター中部）
生活相談／自立支援相談員（パーソナルサポートセンター中部）
債務相談／弁護士（醇法律事務所・あかばな一法律事務所）
税金相談／読谷村役場健康保険課
就労相談／一般社団法人うちなーからはーい
生活保護相談／読谷村役場福祉課
生活福祉資金貸付相談・特例貸付償還相談／読谷村社協

（３）地域支え合い推進事業（よみたん助け合い地域づくり事業）

生活に困っている世帯（食料品が足りない世帯や生活用品の購入が難しい世帯、制服やジャージの準備が難しい等）への支援事業として、地域住民や企業等へ食料品・生活用品・学用品の寄付の協力へPRを行い、いただいた寄付を必要としている世帯へ提供を行った。この活動を通して地域住民がお互いで支え合うという意識の変化を促し、必要時に食料や生活用品を提供できる体制整備をしていくことを目的に実施した。

また、物価高騰の影響を受け生活に困っている世帯へも物資の提供を継続して行った。

【寄贈・募集】

募集媒体	社協広報・社協SNSの活用等
寄贈件数	161件 ※他ひとり1品156点（社協窓口かご）
寄贈内容	米、カップ麺、レトルト、缶詰、乾麺、調味料、野菜類、果物類、肉、魚、日用品、紙オムツ、粉ミルク、お菓子等
主な寄附者	村民、自治会、民生委員児童委員、赤十字奉仕団、更生保護女性会、村内企業、村外企業、村内農業従事者等

【募集方法】

- 食料品、生活用品寄贈を村民、企業、団体へ協力を呼びかけた。
- 社協広報媒体を活用し制服等学校用品寄贈を村民、企業、団体へ協力を呼びかけた。
- ひとり一品運動を実施し社協入口にかごを設置した。

【提供・支援】

- 食料・生活用日確保困難世帯への支援
 - ・社協への相談者、関係機関や相談支援機関からの食料・生活用品等の支援の相談があった際、生活の立て直しが完了するまでの間や緊急的な食料・生活用品の支援を行った。
- 必要な世帯へ届く取組として自治会や関係先に電話やFAXにて在庫状況の発信。
- 寄贈があった生鮮食品の鮮度が保たれるよう冷凍庫を活用し受け渡しが可能な物品に幅ができた。
- 「ルナセット（生理用品）」を社協窓口や村立図書館で受け取れる仕組み作りを継続して行った。
- SSW（スクールソーシャルワーカー）と連携し、生理用品が必要な世帯へ提供した。また、村内各小中学校の養護教諭ヘルナセットの情報共有と生理用品の提供を行った。

■食材支援月別件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	48	50	31	44	28	24	37	57	32	33	32	40	450

■イベント型フードバンク

- フードパントリー開催への協力 令和7年3月29日（土）
- ※主催：一般社団法人 宜野湾子どもゲンキ食堂

■制服・学用品等

気兼ねなく制服が受け取れるように別室を設けている。また、在庫、サイズがなく対応できない場合は、有料のリサイクルショップを案内し対応した。社協広報を通して寄付を募った。

■制服、学用品リユース活動利用者内訳

利用世帯数：179 世帯 ※重複世帯あり

幼稚園	小学校	読谷中	古堅中	読谷高校	その他
2 世帯	47 世帯	66 世帯	35 世帯	16 世帯	6 世帯

利用件数合計：351件

体育着 (小学校)	体育着 (中学校)	ジャージ (中学校)	上着 (セーラ)	スカート	上着 (シャツ)	ズボン	学ラン	式服	幼稚園服	その他 (学用品)	未記入
16	31	31	64	75	16	35	18	6	3	28 (11)	17

1 1. 生活支援体制整備事業の推進（村受託事業）

（1）地域支え合い体制づくりの推進

住民同士の支え合い体制の構築に向けて自治会、民生委員児童委員、地域協力員との協働で要配慮者の把握、気かけ活動の環境整備を継続して行い、令和6年度は平常時の地域において見守り等の支援が必要な方への総合的な支え合いの体制づくりを目的に、役場、社協職員が関わり開催することで各委員が無理なく支え合い活動できる体制にもつながった。

◇地域支え合い体制づくり会議・活動実施状況

（令和7年3月現在）

	地域名	支え合い体制づくり関係者	対象者数	実施回数
1	長浜地域	自治会長、民生委員、地域協力員、福祉課	21名	11回
2	渡慶次地域	自治会長、公民館職員、民生委員、地域協力員、福祉課、瀬名波駐在所	19名	4回
3	宇座地域	自治会長、公民館職員、民生委員、地域協力員、福祉課	46名	11回
4	瀬名波地域	自治会長、公民館職員、民生委員、地域代表、福祉課 瀬名波駐在所	41名	7回
5	儀間地域	自治会長、公民館職員、民生委員、老人会代表、ゆいまーる代表、福祉課	30名	10回
6	高志保地域	自治会長、公民館職員、民生委員、地域協力員、福祉課	26名	12回
7	波平地域	自治会長、民生委員、老人会長、ゆいまーる会長、ゆいまーる健康チェック、地域協力員、村議、福祉課	22名	9回
8	上地地域	自治会長、民生委員、福祉課	13名	10回
9	都屋地域	自治会長、公民館職員、民生委員、地域協力員 ゆいまーる会長、福祉課	31名	4回
10	横田地域	自治会長、公民館職員、民生委員、地域協力員、福祉課	41名	11回
11	大添地域	自治会長、公民館職員、民生委員、福祉課	25名	8回
12	大木地域	自治会長、公民館職員、民生委員、福祉課	44名	10回
13	伊良皆地域	自治会長、公民館職員、民生委員、福祉課	30名	9回
14	牧原地域	自治会長、民生委員、福祉課 ※2地域合同開催	13名	6回
15	長田地域			
16	渡具知地域	自治会長、公民館職員、民生委員、地域協力員、福祉課	28名	8回
17	古堅地域	自治会長、公民館職員、民生委員、地域協力員、福祉課	23名	5回
18	大湾地域	自治会長、公民館職員、民生委員、福祉課 ※2地域合同開催	28名	4回
19	比謝町地域			

20	比謝地域	自治会長、公民館職員、民生委員、地域協力員、福祉課	51名	8回
21	楚辺地域	自治会長、民生委員、福祉課、楚辺駐在所	44名	11回
22	喜名地域	自治会長、公民館職員、民生委員	43名	6回
23	親志地域	自治会長、民生委員、福祉課	16名	4回
24	座喜味地域	自治会長、公民館職員、民生委員、福祉課	36名	10回

(2) 地域支え合い体制づくり推進事業活動助成金の交付

地域支え合い活動委員会に対して、活動の促進と、地域福祉の増進を図ることを目的に活動助成金を交付した。

(3) 生活支援体制整備 協議体

いつまでも住民が安心して暮らすことができる読谷村を目指し、令和6年度は地域で起こりうる有事を想定し、地域づくりにつながる協議体を実施した。主に行方不明者が地域で出た場合に不安なくスムーズに発見活動が出来るように『行方不明者発見活動事務局対応マニュアル』の作成に向けて読谷村公民館連絡協議会と協議を行った。また、見守り協定締結事業所と更なる連携強化を図るために平時の見守り、気かけの情報交換と有事の行方不明者の発見活動への協力等、関係機関に連絡できる体制の仕組みについて相互で情報を共有し、今後の活動に活かすことを目的に実施した。

■ 第2層協議体（中圏域）

【第1回】

日時	場所	参加人数
令和6年9月3日（火） 14時～16時	読谷村総合福祉センター 2階 ホール	19名
<p>【参加者】大添自治会長、読公連役員（3役）、地域包括支援センター、役場地域福祉係、役場総務課、嘉手納署、ニライ消防団、見守り協定事業所代表 まちなか研究所わくわく、読谷村社会福祉協議会</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SOSネットワークのこれまでの取り組み ・高齢者の行方不明事案が発生し検索活動を通してのふりかえり ・検索活動をスムーズに行うために必要なコト、必要なモノの確認 ・今後、想定される検索活動に備える 等 		

【行方不明者発見活動事務局対応マニュアル（仮称）作成に向けて調整会議】

第1回	【日 時】 令和6年9月20日	【場 所】 大湾自治会	【参加者】 大湾自治会長、社協2名
	【内 容】『行方不明者発見活動事務局対応マニュアル（仮称）』作成調整会議 ・マニュアルの内容、会議開催に向けて調整事項の確認		
第2回	【日 時】 令和6年10月10日	【場 所】 総合福祉センター 中研修室	【参加者】 座喜味・大添自治会長、社協2名
	【内 容】『行方不明者発見活動事務局対応マニュアル（仮称）』作成調整会議 ・マニュアル原案の確認 ・今後の動きの確認		
-	【日 時】 令和6年10月11日 ～令和6年10月18日	【場 所】※資料確認期間 各自治会	【参加者】大添・大湾・波平・ 座喜味・楚辺／自治会長
	【内 容】『行方不明者発見活動事務局対応マニュアル（仮称）』作成調整 ・マニュアル原案訂正後、再確認期間		
第3回	【日 時】 令和6年11月11日	【場 所】 総合福祉センター 会議室	【参加者】大湾・波平・座喜味・ 大添・楚辺／自治会長、社協3名、 まちわく1名
	【内 容】『行方不明者発見活動事務局対応マニュアル（仮称）』作成調整会議 ・マニュアル原案訂正後、再々確認 ・完成に向けて今後の動きの確認		
第4回	【日 時】 令和6年11月21日	【場 所】 読谷村役場 3F会議室	【参加者】大湾・大添・楚辺／自 治会長、総務課長、福祉課長、 企画課長、社協2名
	【内 容】『行方不明者発見活動事務局対応マニュアル（仮称）』作成調整会議 ・関係機関のそれぞれの現状の確認や役割分担について		
第5回	【日 時】 令和7年2月10日	【場 所】 総合福祉センター 2階大ホール	【参加者】 村内各自治会長
	【内 容】『行方不明者発見活動事務局対応マニュアル（仮称）』作成に向けて ・第3層協議体として 各自治会長とマニュアルの情報確認及び検討		
第6回	【日 時】 令和7年3月25日	【場 所】 波平自治会	【参加者】 村内各自治会長、 波平支え合いメンバー
	【内 容】『行方不明者発見活動事務局対応マニュアル（仮称）』自治会長会 全体確認 ・第3層協議体として 波平自治会での机上訓練とマニュアルの実用化に向けて確認		

【第2回】

日 時	地 域	参加者
令和7年1月24日（月） 14時～15時30分	総合福祉センター老人憩の室	8名
<p>【参加者】見守り協定締結事業所 《コープ沖縄、沖縄ヤクルト株式会社、沖縄タイムス販売店、琉球新報販売店、沖縄郵便局（伊良皆、喜名、読谷）》</p> <p>【内 容】見守り協定事業所とのスムーズな連携に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行方不明者発見活動マニュアル（仮称）の紹介 ・見守り活動の取組みや各企業、団体の活動の共有 		

■第3層協議体（小圏域）

【第1回】

日 時	内 訳	参加者
令和6年7月29日（月）14時～	渡慶次小学校区地域支え合い活動委員会	10名
	読谷小学校区地域支え合い活動委員会	11名
	喜名小学校区地域支え合い活動委員会	4名
	古堅小学校区地域支え合い活動委員会	4名
	古堅南小学校区地域支え合い活動委員会	9名
	その他（協力員、行政）	8名
<p>【参加者】各自治会長、各支え合い活動委員会メンバー、福祉課</p> <p>【内 容】『令和6年度 各地域の支え合い活動委員会の充実のために』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議体とは ・災害時の避難行動について知る ・地域を知る（グループワーク） ・グループワーク発表、まとめ 		

【第2回】

日 時	内 訳	参加者
令和7年2月10日（月）10時～	渡慶次小学校区地域支え合い活動委員会	2名
	読谷小学校区地域支え合い活動委員会	3名
	喜名小学校区地域支え合い活動委員会	5名
	古堅小学校区地域支え合い活動委員会	4名
	古堅南小学校区地域支え合い活動委員会	5名
<p>参加者】各自治会長、福祉課</p> <p>【内 容】『令和6年度 各地域の支え合い活動委員会の充実のために』</p> <p>～行方不明者発見活動事務局対応マニュアル作成（仮称）に向けて～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの取り組みの共有 ・行方不明者発見活動事務局対応マニュアルの検討 ・その他情報交換 		

【第3回】

日 時	内 訳	参加者
令和7年3月25日（火） 13時30分～	渡慶次小学校区地域支え合い活動委員会	1名
	読谷小学校区地域支え合い活動委員会	3名
	波平地域支え合い活動委員会メンバー	4名
	喜名小学校区地域支え合い活動委員会	3名
	古堅小学校区地域支え合い活動委員会	3名
	古堅南小学校区地域支え合い活動委員会	3名
【参加者】各自治会長、波平地域支え合い活動委員会 【内 容】『令和6年度 各地域の支え合い活動委員会の充実のために』 ～行方不明者発見活動事務局対応マニュアル（仮称）机上訓練～ <ul style="list-style-type: none">・プログラムの流れの説明・行方不明者発見活動事務局対応マニュアル机上訓練使用体験・行方不明者発見活動事務局対応マニュアル机上訓練後ふりかえり・今後のマニュアル活用に向けて		

（4）読谷村地域支え合い推進事業活動報告

広報誌「支え合いよみたん」の発行

核家族化や単身世帯の増加、人間関係の希薄化が進む中、専門職のみで地域のすべての支援ニーズに対応することは難しくなっていく。こうした現状においては、住民同士の「支え合い」や「気かけ」がこれまで以上に重要になってくる。

読谷村では、地域支え合い推進の一環として、村内24地域に支え合い活動委員会を設置し、地域ごとに支え合い活動を展開している。

しかし、地域活動や自治会の存在を十分に知らない住民もおり、住民同士のつながりの必要性や支え合いの意義が十分に伝わっていないという課題がある。

広報紙『支え合い よみたん』は、支え合い活動委員会を担う各自治会に焦点をあて、地域活動を紹介し、自治会と関わりの少ない住民には地域活動を知るきっかけとなり、加入している住民にも地域との関わりを再認識する機会となることを期待し、「支えられ、支える」関係づくりを日常的に意識する住民が増えることで、地域福祉の向上と支え合い活動の充実を図ることを目的に発刊した。

（5）読谷村地域支え合い推進事業 地域見守りあいさつ運動

小中学校児童生徒の徒歩登下校、またその他の時間の防犯対策を推進し地域でのつながり、見守り合いの関係で安心安全な地域づくりを行うことを目的とし、また高齢者・障がいのある方の地域での役割づくりのひとつになることも目的に行った。

【ながらパトロール隊】

- 事業に賛同頂ける方へ速やかに渡せるように希望地域ごとに、ベスト、帽子を常備している。
- 登下校時や朝夕に自宅または通学路でベストや帽子を着用して、交通安全、声掛けや地域のパトロールを行った。
- 各地域で独自のあいさつ運動や気かけ、地域パトロールがある中で、事業の活動の周知が進まない中で「ながらパトロール隊」として活動しやすい環境づくりを継続して考える必要がある。

12. 福祉資金貸付事業の推進

(1) 生活福祉資金貸付事業 (県社協受託事業)

低所得者、障がい者または高齢者世帯に対し資金の貸し付けと必要な相談支援を行うことにより、経済的自立及び生活意欲の助長促進を行い、安定した生活を送れるように支援した。

◎貸付相談 (相談件数 661 件 / 貸付申請件数 5 件 / 貸付決定件数 5 件)

◎貸付決定金額 12,376,000 円

	資金内容	相談件数 (延べ)	申請 件数	貸付 件数	貸付決定金額
生活 福祉資金	福祉費	52 件	1 件	1 件	359,000 円
	教育支援資金	8 件	1 件	1 件	102,000 円
	総合支援資金	40 件	0 件	0 件	0 円
	緊急小口資金	87 件	2 件	2 件	155,000 円
	不動産担保型生活資金	13 件	1 件	1 件	11,760,000 円
	臨時特例つなぎ資金	0 件	0 件	0 件	0 円
	生活復興支援資金	0 件	0 件	0 件	0 円
	償還に関すること (特例貸付償還含む)	448 件			
該当なし	13 件				
合 計		661 件	5 件	5 件	12,376,000 円

【令和5年度】相談件数：471 件 貸付件数：6 件 貸付決定金額：1,603,344 円

【令和4年度】相談件数：284 件 貸付件数：4 件 貸付決定金額：3,582,000 円

(2) 生活福祉資金特例貸付償還相談

令和5年1月から特例貸付償還が開始となっており、償還免除対象世帯への手続き案内や、償還困難な世帯への償還猶予、減額相談を行った。

◎ 償還免除件数 1,526 件

【償還開始累計 令和7年3月31日】

特例貸付 償還免除	資金内容	免除件数	免除決定金額
	緊急小口資金	645	120,701,240 円
	総合支援資金（初回）	547	297,291,750 円
	総合支援資金（延長）	193	160,417,500 円
	総合支援資金（再貸付）	141	77,080,000 円
合 計		1,526 件	601,490,490 円

◎ 特例貸付償還相談 窓口対応件数 238 件

【令和6年4月～令和7年3月】

特例貸付 償還相談	資金内容	相談内容	件数
	緊急小口資金	減額	5
		非課税免除	44
	総合支援資金（初回）	減額	0
		非課税免除	35
	総合支援資金（延長）	減額	0
		非課税免除	25
	総合支援資金（再貸付）	減額	0
		非課税免除	129
合 計			238 件

◎特例貸付償還猶予 申請件数合計 200 件

【令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月】

特例貸付 償還猶予件数	資金内容	猶予申請件数	猶予継続件数	猶予後免除件数
	緊急小口資金	45	13	10
	総合支援資金（初回）	39	13	10
	総合支援資金（延長）	26	15	4
	総合支援資金（再貸付）	25	0	0
合 計		135 件	41 件	24 件

（３）生活福祉資金償還指導

生活福祉資金は低所得者、障がい者または高齢者世帯の自立更生のために貸付ける制度であり、その償還金は逐次、他の対象者に貸付けるものである。今年度は 8 月 21 日・22 日に償還相談会を行った。

◎対象者 152 名

架電	105	不在投函	26
来所	22	その他	6
訪問	50	合 計	209 件

（４）読谷村民生金庫貸付事業

民生金庫は生活困窮世帯の自立更生のために貸付ける制度であり、その償還金は逐次、他の対象者に貸付けるものである。償還相談については、今年度特例貸付業務等の理由により実施していない。

13. 法外援護事業

“つながり ささえあう みんなの地域づくり”をスローガンに、歳末たすけあい募金運動を 12 月に展開した。歳末たすけあい募金運動で集められた浄財を「歳末たすけあい義援金」として、令和 6 年 12 月 25 日に村内の支援を必要とする世帯へ配分した。

配分の際に、自治会や民生委員が訪問を行うことにより、見守りや地域とのつながり、孤立防止につなげる事ができた。

◎配分金額：1,789,000 円

◎配分世帯数：143 世帯

	一人暮らし 老人世帯	ねたきり 老人世帯	心身障害者 世帯	長期療養者 世帯	母子・父子 世帯	多子世帯	その他 困窮世帯	合 計
自治会	19	3	15	7	2	0	13	59
民生委員	12	0	4	1	29	2	8	56
福祉課	1	0	0	0	0	0	0	1

こども未来課	0	0	1	0	9	1	0	11
社協	0	0	2	0	7	0	7	16
合 計	32	3	22	8	47	3	28	143

【令和5年度】配分金額：1,931,000円

配分世帯数：154世帯

14. その他の活動事業

(1) 福祉バスの貸出

福祉バスの運行事業は、下記のとおり各種団体活動に有効に利活用されている。

◎貸出回数：95回

利用団体名	回数	利用団体名	回数	利用団体名	回数
村内学校関係	24	ゆいまーる共生事業団体	21	村内自治会	14
民児協活動	7	読谷村老人クラブ連合会	8	各字老人会	9
福祉団体	10	福祉施設	3	ボランティア団体	3
役場関係	3	社協関係	2	その他	10

(2) 福祉車両（リフト機能付き軽自動車）貸出事業

読谷村に在住し、高齢や障がい、疾病等で福祉車両でなければ外出が難しい方を対象に、病院や公共機関への送迎、リフレッシュなどの社会参加の推進を図るために実施した。利用者数、利用回数ともに前年度より減少した。多くの村民に利用して頂くため、社協だよりやチラシ等で周知を行う。

【利用実績】

【令和5年度】利用回数139回（前年比－35）

項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用回数	10	10	7	7	7	10	11	13	6	12	4	7	104

【利用状況】

◇利用者数28名※令和5年度（29名） ◇月平均8.6回※令和5年度（11.58回）

(3) 村内学校事業所等会議への参加

①読谷中学校・古堅中学校生徒指導連絡協議会への参加

各中学校区の連絡協議会へ参加し、関係機関との情報共有を図った。

参加することでそれぞれの専門性、役割を理解し、連携した支援に繋がった。

【読谷中学校】 定例会（年3回） 会場：読谷中学校
参加者：各学校長及び教頭（渡慶次小、読谷小、喜名小、読谷高、嘉手納高、読谷中）、 村教育委員会、嘉手納警察署、青少年センター、こども未来課、青少年指導員、 民生委員児童委員、各自治会、その他（更生保護女性会等）
【古堅中学校】 定例会（年5回） 会場：古堅中学校
参加者：各学校長及び教頭（古堅小、古堅南小、読谷高、嘉手納高、古堅中）、村教育委員会、 嘉手納警察署、青少年センター、こども未来課、保護司、民生委員児童委員、各自治会、 更生保護女性会

②地域ケア会議への参加

地域ケア会議とは、高齢者個人に対する支援の充実と、それを支える社会基盤の整備を同時に進めていく地域包括ケアシステムの充実に向けた手法であり、個々の高齢者の課題把握、解決を推進するネットワークの構築や多職種専門チームによるケアマネジメントを支援する事を目的とした会議である。

	日付	会議方式	社協参加
第1回	令和6年11月21日	対面会議	社協職員（CSW）

※CSW（コミュニティソーシャルワーカー）

15. 読谷村総合福祉センターの運営

(1)総合福祉センター利用状況

総合福祉センターは、本村の福祉活動の拠点であるとともに、福祉団体による活動、村老人クラブ連合会の生きがいサークル活動（舞踊サークル・レク・古典音楽）や手話サークルをはじめとする文化活動・研修活動・福利厚生利用の会場として広く村民及び各種団体に利用されており、地域福祉を推進する場所として活用されている。

	社協	民協	老人クラブ	福祉施設	福祉団体	役場	ボランティア	経済団体	芸能関係	その他	合計 (利用回数)
ホール	41	34	33	27	8	45	23	4	5	25	245
中研修室	20	6	7	5	19	6	3	1	31	23	121
老人憩いの室	22	11	66	1	8	7	88	0	21	26	250
団体室	7	29	0	0	96	10	16	0	0	1	159
ボランティア室	0	11	0	0	0	0	7	0	0	0	18
合計 (利用回数)	90	91	106	33	131	68	137	5	57	75	793

16. 読谷村生き生き健康センター運営

読谷村から指定管理を受けている読谷村生き生き健康センターは、乳児一般健診や一般介護予防の会場として利用されました。前年度から水曜日に開催されている『生き生きクラブ』は、65歳以上の高齢者を対象としており、住民ボランティアを中心に体操を行っています。

令和6年度 生き生き健康センターホール利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
3歳児健診	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
1歳6ヶ月健診	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
2歳児健診	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
乳児一般健診	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
がんじゅう広場	3	3	4	4	3	3	3	3	4	4	4	2	40
わんからテイクバス	4	4	4	5	4	4	5	4	4	4	4	4	50
生き生きクラブ	4	5	4	5	4	4	5	4	4	4	4	4	51
合計	15	16	16	18	15	15	17	15	16	16	16	14	189

17. よみたん社協共同販売センター収益事業

商工観光課の県外プロモーション（読谷PR事業）に出店を行った。また、村の伝統工芸の振興と福祉の推進を目的とし毎年開催される読谷やちむん市へは事務局として協力をした。

イベント名（出店・協力）	場 所	期 間
大九州展 i n 京都高島屋	京都府	5月8日~20日
読谷村の工芸フェア i n 名古屋	愛知県名古屋市	11月28日~30日
読谷やちむん市 c o t o g o t o	東京都杉並区	令和7年1月17日~27日
第32回読谷やちむん市	J A ゆんた市場	令和7年2月22日~23日

18. 沖縄県共同募金会 読谷村共同募金委員会への協力

(1) 赤い羽根共同募金運動への協力

地域福祉活動をはじめとする福祉事業推進の財源として赤い羽根共同募金は毎年10月1日から3月31日まで全国一斉に展開されている。

村民をはじめ、多くの職域、学校、村内外事業所等のご理解とご協力をいただき下記のとおり多くの善意が寄せられた。

目標額4,923,000円 募金実績額5,362,448円 (達成率108.9%)

①戸別募金 35件 1,959,191円

喜名	74,500円	高志保	169,000円	渡具知	88,500円	牧原	21,500円
親志	25,000円	渡慶次	88,500円	比謝	37,000円	大添	44,000円
座喜味	176,500円	儀間	74,000円	大湾	67,500円	横田	49,000円
伊良皆	84,500円	宇座	114,000円	古堅	79,000円	比謝団地	10,000円
上地	10,000円	瀬名波	79,000円	大木	95,000円	波平団地	10,000円
波平	193,000円	長浜	105,000円	比謝砦	7,500円	窓口納付	7,191円
都屋	51,000円	楚辺	185,500円	長田	13,500円		

募金名	件数	金額	募金名	件数	金額
②法人事業所募金	101件	1,071,000円	⑦団体募金・募金箱	10件	277,423円
③個人事業所募金	61件	351,730円	⑧街頭募金	4件	480,564円
④職域募金	65件	542,465円	⑨県医師会他	7件	209,819円
⑤児童生徒募金	9件	313,902円	合計	308件	5,362,448円
⑥個人募金	16件	156,354円			

【令和5年度】目標額 4,923,000円 募金実績額 5,380,805円 (達成率109.3%)

■赤い羽根共同募金街頭募金運動の実施

- ① 実施日 12月8日(日)
場 所 サンエー大湾シティ、マックスバリュ読谷店
奉仕者 学生ボランティア及び民生委員児童委員
- ② 実施日 12月22日(日)
場 所 サンエー大湾シティ、マックスバリュ座喜味店
奉仕者 学生ボランティア及び民生委員児童委員

(2) 歳末たすけあい募金運動への協力

“つながり ささえあう みんなの地域づくり”をスローガンに歳末たすけあい募金運動（期間：12月1日～31日）を展開した。村民や村内外事業所及び関係機関・団体等のご理解とご協力のもと下記のとおり多くの善意が寄せられました。

目標額 2,300,000円 募金実績額 1,786,210円（達成率 77.7%）

①戸別募金 28件 774,700円

喜名	27,400円	高志保	70,200円	渡具知	38,400円	牧原	8,600円
親志	10,000円	渡慶次	41,800円	比謝	14,800円	大添	18,800円
座喜味	68,800円	儀間	26,800円	大湾	27,200円	横田	19,400円
伊良皆	32,200円	宇座	45,600円	古堅	34,000円	県営比謝団地	14,000円
上地	5,000円	瀬名波	32,200円	大木	38,000円	窓口納付	2,500円
波平	77,600円	長浜	42,000円	比謝砦	3,500円		
都屋	20,000円	楚辺	50,500円	長田	5,400円		

募金名	件数	金額	募金名	件数	金額
②事業所募金	2件	220,000円	④団体募金	4件	249,270円
③職域募金	58件	432,090円	⑤個人募金	7件	110,150円
			合計	99件	1,786,210円

【令和5年度】目標額 2,500,000円 募金実績額 2,051,717円（達成率 82.1%）

(3) 災害義援金への協力

読谷村共同募金委員会では被災された方々を支援することを目的に義援金の募集を実施。

お預かりした義援金は沖縄県共同募金会を通して中央募金会へ全額送金され配分基準に基づき被災者へ配分されます。

義援金額 879,264円 受付内訳（個人4件、団体4件、法人1件、募金箱2件）

義援金名称	募集期間	件数	募金額
令和6年能登半島地震災害	令和6年1月5日～ 令和6年12月27日	8件	812,370円
令和6年7月大雨災害	令和6年8月2日～ 令和6年12月27日	0件	0円

令和6年能登豪雨災害	令和6年9月26日～ 令和7年3月31日	1件	1,000円
沖縄県令和6年11月本島北部豪雨 (12/4受付迄は災害見舞金)	令和6年12月5日～ 令和7年3月31日	2件	65,894円
大船渡市赤崎町林野火災	令和7年3月6日～ 令和7年6月30日	0件	0円

19. 介護保険事業等の充実

本会では居宅介護支援事業、通所介護事業、訪問介護事業を実施した。

(1) 居宅介護支援事業・介護予防支援事業の実施

① 居宅介護支援事業（ケアマネージメント）

利用者が自立した日常生活を営むことができるよう、利用者の選択に基づき、保険医療サービス及び福祉サービスが、多様な事業者から総合的かつ効果的に提供されるように居宅介護支援を実施した。村内に多様なサービス事業所が増え、利用者の状態や希望に添える、質の高い事業所の紹介ができた。

- ◎ サービス利用の相談・アドバイス
- ◎ ケアプランの作成、見直し
- ◎ 介護保険施設への紹介
- ◎ 要介護認定などの手続きの代行
- ◎ 介護サービス提供事業所との連絡調整
- ◎ 定期的な自宅訪問による状況把握

② 介護予防日常生活支援事業・総合事業

読谷村役場福祉課地域包括支援センター・嘉手納町地域包括支援センターより業務委託を受け、担当の保健師、社会福祉士、主任介護支援専門員等と連携を取りながら自立した生活を目指した支援を実施した。

- ◎ サービス利用の相談・アドバイス
- ◎ ケアプランの作成、見直し
- ◎ 要介護認定などの手続きの代行
- ◎ 介護サービス提供事業所との連絡調整

③ ケアマネジャーのサポート・育成、地域の介護課題の解決

- ・ 地域のケアマネジャーのスキルアップを図るための事例研究会に講師や運営として協力、勉強会などを企画した。
- ・ 認知症地域支援推進委員として、「子どもからお年寄りまで、皆で支え合い、共に生きるむらづくり」に協力した。
- ・ その他、沖縄県介護支援専門員協会業務執行理事、中部地区在宅医療・介護連携推進事業推進委員を務め、地域医療・介護・福祉の発展に微力ながら尽力させていただいた。

【利用実績比較】

令和5年度	新規 (介護)	新規 (予防)	利用者数	居宅介護 支援員	令和6年度	新規 (介護)	新規 (予防)	利用者数	居宅介護 支援員
令和5年4月	0	0	38	1	令和6年4月	0	0	39	1
5月	0	0	39	1	5月	2	0	39	1
6月	0	0	39	1	6月	0	0	37	1
7月	0	0	40	1	7月	2	0	38	1
8月	1	0	37	1	8月	2	2	42	1
9月	3	0	38	1	9月	3	1	43	1
10月	3	0	39	1	10月	1	0	43	1
11月	1	0	37	1	11月	1	0	43	1
12月	3	0	37	1	12月	3	0	45	1
令和6年1月	0	0	35	1	令和7年1月	2	0	46	1
2月	4	0	37	1	2月	0	0	48	1
3月	1	0	39	1	3月	0	0	48	1
合計	16	0	455	1	合計	16	3	511	1

【介護度別】

(令和7年3月末)

	利用者数	事業対象	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5
令和5年度	455	0	12	14	130	120	57	87	35
令和6年度	511	0	12	35	112	137	80	97	38
増減 (B) - (A)	56	0	0	21	▲18	17	23	10	3

居宅介護支援事業（ケアマネジャー）研修・活動報告

NO	日付	研修内容
1	4月18日	(研修) 第1回 読谷村ケアマネ情報交換会
2	5月13日	(研修) 読谷村地域包括支援センター研修 「認知症サポータースキルアップ研修」
3	5月16日	(研修) 読谷の里居宅介護支援事業所事例検討会
4	5月20日	(活動) 推進委員 中部地区医師会 在宅医療・介護連携推進事業会議 協議テーマ「入退院支援及び療養生活支援における資源不足について」
5	6月27日	(研修) 中部地区12市町村 在宅医療・介護連携推進事業 認知症高齢者の医療介護連携
6	7月18日	(研修) 第2回 読谷村ケア面情報交換会 災害の備え災害時にケアマネが出来る事
7	7月30日	(研修) 中部地区12市町村 在宅医療・介護連携推進事業 入退院支援多職種研修会
8	8月9日	(研修) 読谷村キャラバンメイト スキルアップ研修
9	9月19日	(研修) 嘉手納町委託事業所等 介護支援専門員連絡会
10	9月19日	(研修) 中部地区12市町村 在宅医療・介護連携推進事業 在宅療養生活における口腔栄養管理～入退院を繰り返さないための連携
11	9月26日	(研修) 転倒予防の視点を学ぶ
12	令和7年 2月10日	(研修) 中部地区12市町村 在宅医療・介護連携推進事業 「生き方」も「逝き方」も自分で決める～書いて伝える私の想い～

(2) 通所介護事業・介護予防・日常生活支援総合事業の実施

通所介護事業及び介護予防・日常生活支援事業については、利用者の在宅生活の支援、社会的孤立感の解消、心身機能の維持向上、介護家族の身体的、精神的負担の軽減を、社会福祉の基本理念のもと可能な限り自立した日常生活を営むことができるよう支援することをサービス提供の目標としている。

令和6年度の利用延べ人数は合計で7,628人、対前年度比較で959人増となった。最も多い月が11月で696人、1日当たり27人、最も少ない月は6月で523人、1日当たり21人となった。平均要介護度は前年度1.6、今年度は要介護4.5の方が増えた為2.0となっている。

契約状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和5年度 (A)	50	49	50	51	49	51	53	55	53	51	54	53	619
令和6年度 (B)	51	49	44	48	47	53	60	55	59	59	60	57	642
増減 (B) - (A)	1	0	▲6	▲3	▲2	2	7	0	6	8	6	4	23

単位 (人)

	新規	解約	解約内訳					
			入所	入院	他事業 所利用	自立	その他	死去
令和5年度 (A)	19	15	6	0	1	3	2	3
令和6年度 (B)	18	20	5	7	2	1	0	5
増減 (B) - (A)	▲1	5	▲1	7	1	▲2	▲2	2

① 通所介護事業 (デイサービス)

通所介護事業を実施した。

延べ利用者数6,841人、一日平均利用者数22人

看護師による健康チェック 食事や入浴の提供 レク、体操、運動機能向上訓練、誕生会、クリスマス会等

② 介護予防・日常生活支援総合事業

介護予防・日常生活支援総合事業を実施した。

延べ利用者数787人、一日平均利用者数3人

看護師による健康チェック 食事や入浴の提供 レク、体操 運動機能向上訓練、誕生会、クリスマス会等

職員体制

単位 (人)

実人数	常勤		非常勤		常勤換算	備考
	専従	兼務	専従	兼務		
生活相談員	0	3	0	0	1.2	
看護職員	0	1	0	2	0.9	
介護職員	3	4	2	2	6.4	
機能訓練指導員	0	1	0	2	0.4	
事務員	0	1	0	0	0.7	
その他の従業者	1	0	4	0	3.0	

利用実績

単位（人）

令和6年度	延べ人数	日平均	利用者数	令和5年度	延べ人数	日平均	利用者数
4月	619	24	51	4月	529	21	50
5月	604	22	49	5月	600	22	49
6月	523	21	44	6月	512	20	50
7月	595	22	48	7月	554	22	51
8月	635	24	47	8月	463	20	49
9月	654	26	53	9月	579	22	51
10月	695	26	60	10月	585	22	53
11月	696	27	55	11月	580	22	55
12月	657	27	59	12月	530	22	53
1月	641	27	59	1月	537	22	51
2月	627	26	60	2月	600	24	54
3月	682	26	57	3月	600	23	53
合計	7,628	298	642	合計	6,669	262	619
平均	635	25	54	平均	555	22	51

介護度別

単位（人）

	運営日	利用延べ人数	事業対象	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5
令和5年度(A)	302	6,669	108	228	368	3,620	980	761	536	68
令和6年度(B)	308	7,628	119	245	423	3,076	1,997	735	829	204
増減(B)-(A)	6	959	11	17	55	▲544	1,017	▲26	293	136

年間行事

単位（人）

日付	行事	参加人数
令和6年4月	誕生日会	なし
5月	誕生日会	41名
6月	誕生日会	46名

7月	誕生日会	27名
8月	誕生日会・消防訓練	50名
9月	誕生日会	なし
10月	敬老会・誕生日会	76名
11月	誕生日会・作品展見学	26名
12月	クリスマス会・誕生日会	86名
1月	誕生日会・餅つき会	28名
2月	誕生日会	なし
3月	誕生日会・コーヒーカフェ・民謡ショー	54名

(3) 訪問介護事業・介護予防訪問介護事業の実施

要介護認定で要支援1・2と認定された方、日常生活で介助を必要とする要介護1～5と認定された方に対し、自立した日常生活及び生活の維持改善を図るため、利用者の立場に立ったサービスを提供した。

令和6年度の利用延べ人数は5,911人、対前年度比較で1,155人減となった。最も多い月が4月で589人、1日当たり20人、最も少ない月は2月で391人、1日当たり14人となった。

サービス内容の傾向としては、介護保険はデイサービスへの送出し、介護予防では日中の調理や買物支援の相談が多い。また、在宅生活が困難となり施設入所され、利用終了となる利用者も増加している。

① 訪問介護事業

家事生活援助、身体介助等のサービスを実施した。

延べ利用者数3,791人、1日平均利用者数10人

身体介護：食事、排泄、入浴、清拭、衣類着脱の介助、口腔ケア、整容など

生活援助：調理、洗濯や衣類の補修、清掃、整理整頓、買い物

通院等乗降介助：病院までの移動・乗り降りの介助

② 介護予防・日常生活支援総合事業

介護予防・日常生活支援総合事業サービスを実施した。

延べ利用者数2,120人、1日平均利用者数6人

身体介護：食事、排泄、入浴、清拭、衣類着脱の介助

生活援助：調理、洗濯や衣類の補修、清掃、整理整頓、買い物

職員体制（障がい福祉サービス兼務）

単位（人）

実人数	常勤		非常勤		常勤換算
	専従	兼務	専従	兼務	
訪問介護員等	0	2	0	17	5
うちサービス提供責任者	0	2	0	2	2
事務員	1	0	0	0	1
その他従業者	0	0	0	0	0

※沖縄県介護サービス情報報告システムより

利用実績

単位（人）

令和6年度	延べ人数	日平均	利用者数	令和5年度	延べ人数	日平均	利用者数
4月	589	20	59	4月	618	21	68
5月	553	18	58	5月	712	23	74
6月	504	17	55	6月	671	22	71
7月	523	17	57	7月	642	21	68
8月	533	17	55	8月	551	19	61
9月	468	16	53	9月	564	19	60
10月	499	16	53	10月	571	18	61
11月	486	16	52	11月	569	19	60
12月	505	16	53	12月	558	18	61
1月	463	15	47	1月	529	17	58
2月	391	14	47	2月	520	18	58
3月	397	13	43	3月	561	18	56
合計	5,911	195	632	合計	7,066	233	756
平均	493	16	53	平均	589	19	63

介護区分別		単位（人）			
	身体介護	身体生活	生活援助	乗降介助	訪問型独自
令和5年度 (A)	3,112	1,187	667	79	2,021
令和6年度 (B)	2,420	862	493	16	2,120
増減 (B) - (A)	△692	△325	△174	△63	99

介護度別		単位（人）							
	利用延べ人数	事業対象	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5
令和5年度 (A)	7,066	191	371	1,456	1,592	1,502	594	527	833
令和6年度 (B)	5,911	197	441	1,482	537	1,265	579	584	826
増減 (B) - (A)	△1,155	6	70	26	△1,055	△237	△15	57	△7

20. 障害者総合支援法による障害福祉サービスの運営

障がいのある利用者が、自立した日常生活や地域で安心して暮らしていけるよう居宅介護、重度訪問介護、同行援護の訪問介護サービスを実施した。

また、同居家族が高齢であったり、支援が必要な状態の世帯もあり、1世帯で介護保険、障害福祉のサービスを利用する世帯も見られる

(1) 障害福祉サービス事業

① 居宅介護 実利用者数 21 名 延べ利用者数 2,220 人

食事、排泄、入浴、清拭介助、調理、洗濯、清掃、通院等介助

② 重度訪問 実利用者数 1 名 延べ利用者数 199 人

重度の肢体不自由で常時介護を必要とする利用者に、居宅において入浴、排泄、食事等の介護サービスや調理、洗濯、清掃等その他の支援を行なう。

③ 同行援護 実利用者数 6 名 延べ利用者数 224 人

移動に著しい困難を有する利用者に同行し、移動に必要な情報を提供するとともに、移動の援護等、外出に必要な援助を行う。

利用実績

単位（人）

令和6年度	延べ人数	日平均	利用者数	令和5年度	延べ人数	日平均	利用者数
4月	212	7	25	4月	230	7	21
5月	228	7	22	5月	259	8	23
6月	183	6	23	6月	214	7	21
7月	236	8	23	7月	213	7	22
8月	222	7	23	8月	168	5	20
9月	222	7	27	9月	203	7	22
10月	243	8	28	10月	254	8	22
11月	225	8	27	11月	230	8	23
12月	256	8	25	12月	231	7	21
1月	213	7	28	1月	212	7	21
2月	183	7	21	2月	205	7	22
3月	220	7	26	3月	203	7	20
合計	2,643	87	298	合計	2,358	85	258
平均	220	7	25	平均	197	7	22

区分別利用回数

	居宅介護	重度訪問介護	同行援護	合計
令和5年度（A）	1,960	213	185	2,358
令和6年度（B）	2,220	199	224	2,643
増減（B）－（A）	260	△14	39	285

（2）地域生活支援事業（村受託事業）

① **読谷村移動支援事業**

屋外での移動に困難のある利用者に、外出支援を行うことにより、地域での自立生活及び社会参加を促すことを目的として実施した。

前年度までは、障がい福祉事業の利用者が多かったが、令和6年度は高齢者の利用も増えた。

利用状況

	新規	解約	延べ回数	利用者数合計	利用者数月平均
令和5年度(A)	3	0	264	78	6
令和6年度(B)	2	2	283	88	7
増減(B)-(A)	▲1	2	19	10	1

(3) 職員研修・講習会の実施

研修・講習会実績

単位(人)

NO	日付	研修内容	参加人数
1	4月25日	心に響く接遇研修、ケース検討会	8
2	5月30日	B C P 業務継続計画研修、ケース検討会	11
3	7月30日	食中毒と感染症予防と対策についての研修、ケース検討会	7
4	8月2日	B C P 業務継続計画全体研修	5
5	8月20日	認知症に関する研修、ケース検討会	9
6	9月26日	高齢者虐待防止の研修、ケース検討会	12
7	10月18日	法令遵守、事故防止の知識研修、ケース検討会	13
8	11月20日	社内規定について説明会(移動費)、ケース検討会	11
9	12月20日	介護技術の研修、ケース検討会	13
10	1月27日	働きやすく働き甲斐のある職場づくりのために講習	10
11	2月7日	B C P 業務継続計画机上訓練	9
12	2月25日	救急救命講習	11
13	3月21日	令和6年度振り返りと次年度に向けての説明、ケース検討会	12

2 1. 読谷村介護予防・日常生活支援総合事業（村受託事業）

閉じこもりがちな高齢者等に対し、集いの場を提供し、レクや野外活動、地域交流等を行うことで、社会的孤立の解消及び自立した日常生活を営み、さらに地域とのつながりを築くことを目的に予防サービス（通所型サービスA）事業を実施した。

（1）わんからデイサービス

令和6年度の利用延べ人数は、354人、対前年度比較で125人減となった。

- ◎対象者 要支援認定者、事業対象者
- ◎日時 毎週火曜日 午前10時～午後3時
- ◎場所 よみたん生き生き健康センター2階
- ◎内容 高齢者の閉じこもり予防や自立支援に資する通所事業
 - ・看護師による健康チェック ・食事の提供 ・レク、交流 ・運動 ・送迎
- サービス実施日数50日 ■利用登録者数15人
- 延べ利用者数354人（男性152人、女性202人）※令和5年度延べ利用者数479人
- 1日平均利用者数7人（前年度9人）

利用実績

単位（人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和5年度 (A)	36	44	42	48	38	43	42	44	38	39	35	30	479
令和6年度 (B)	28	41	41	44	28	25	39	25	20	14	26	23	354
増減 (B)-(A)	▲8	▲3	▲1	▲4	▲10	▲18	▲3	▲19	▲18	▲25	▲9	▲7	▲125

2 2. 読谷村生き生き健康センター指定管理

■施設の名称及び指定期間

- ◎施設の名称 読谷村生き生き健康センター（読谷村字都屋167番地2）
- ◎指定期間 令和6年4月1日から令和11年3月31日まで（5年間）

■施設での事業

【1階】

- ◎通所介護事業所の運営（介護保険事業、通所型サービスA事業）
- ◎訪問介護事業所の運営（介護保険事業、障害福祉サービス事業）
- ◎居宅介護支援事業所の運営（介護保険事業）

【2階】

- ①施設貸出事業・・・乳児健診、一般健診
一般予防事業等（がんじゅう広場、生き生きクラブ）
- ②受託事業・・・通所型サービスA「わんからデイサービス事業」（週1回）